

機械事業部門



売上高

△11.1%

1,545億円

経常利益

△30.4%

145億円

経常利益率

△2.6 points

9.4%

2010年度の概況

自動車および石油精製・石油化学業界などにおける設備投資が、緩やかに回復したことから、関連製品の受注高は、2009年度を上回りました。

このような状況から、2010年度の受注高は、2009年度比41.4%増の1,407億円となり、2010年度末の受注残高は、1,522億円となりました。しかしながら、2010年度の売上高は、大型の石油精製用高圧反応器の売上が集中した2009年度に比べると、11.1%減の1,545億円となり、経常利益は2009年度に比べ63億円減益の145億円となりました。

	億円		
	2009年度	2010年度	増減率
売上高	1,737	1,545	△11.1%
経常利益	208	145	△30.4%

TOPICS

インドにタイヤ・ゴム機械事業の拠点設立

2010年11月、当社はインドの建設エンジニアリング大手「ラーセン・アンド・トップロ社(以下L&T社)」と合併で、タイヤ・ゴム機械の製造販売会社「L&T KOBELCO MACHINERY PRIVATE LIMITED」を設立しました。インドでは自動車生産の急増を背景にタイヤ工場の新設が続いており、需要の増加が見込まれています。L&T社は、インドにおけるタイヤ加硫機のトップメーカーで、インド国内をはじめ欧州や中近東などを含めた強固な販売網を持っており、新会社ではこの販売網をフル活用することでインド、欧州、中近東などへの拡販を図っていきます。

汎用圧縮機の中国・上海工場を増強

汎用圧縮機では、中国の「神鋼圧縮機製造(上海)有限公司(KCMS)」で年産能力を2,200台から3,500台へ引き上げました。汎用圧縮機は、中国国内の需要が伸長しているほか、タイやマレーシア、ベトナムなどアジアへの輸出も活発化しており、需要を着実に取り込んでいく計画です。今回の増強により、中国、東南アジアへの供給拠点としての機能を強化し、生産コストの圧縮を進めながら、事業拡大を図っていきます。



KCMS増設